

船舶事故調査報告書

令和4年8月31日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 佐藤 雄二（部会長）

委員 田村 兼吉

委員 岡本 満喜子

事故種類	衝突
発生日時	令和4年3月30日 06時32分ごろ
発生場所	岡山県瀬戸内市前島南東方沖 備前黄島灯台から真方位000° 1,100m付近 (概位 北緯34°36.4′ 東経134°11.9′)
事故の概要	プレジャーボート ^{れいめい} 嶺名丸は、左転しながら前進中、また、プレジャーボート ^{あやスリー} 綾Ⅲは、漂流中、両船が衝突した。 嶺名丸は、船首部外板に擦過傷を生じ、また、綾Ⅲは、左舷船尾部外板の亀裂等を生じた。
事故調査の経過	令和4年4月11日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	A プレジャーボート 嶺名丸、5トン未満（長さ約6.75m） 271-8076岡山、個人所有 6.75m (Lr) × 1.63m × 0.50m、FRP ディーゼル機関、58.85kW、進水年不詳 B プレジャーボート 綾Ⅲ、5トン未満（長さ約6.27m） 271-20384岡山、個人所有 6.27m (Lr) × 2.35m × 1.01m、FRP ガソリン機関（船外機）、84.60kW、昭和63年4月
乗組員等に関する情報	A 船長A 84歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和49年12月24日 免許証交付日 平成31年2月28日 (令和7年1月29日まで有効) B 船長B 59歳 二級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和55年7月15日 免許証交付日 令和4年2月21日 (令和9年12月15日まで有効)
死傷者等	なし
損傷	A 船首部外板に擦過傷

	B 左舷船尾部外板に亀裂、左舷船尾部ハンドレールに曲損
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風 ほとんどなし、視界 良好</p> <p>海象：海上 平穏、潮汐 上げ潮の中央期（三蟠^{さんばん}）、潮高 約103 cm（牛窓）</p>
事故の経過	<p>A船は、船長Aが1人で乗り組み、釣りの目的で、令和4年3月30日06時00分ごろ前島南東方沖の釣り場に向けて瀬戸内市牛窓^{うしまど}港を出港した。</p> <p>船長Aは、06時20分ごろ釣り場に到着して機関を中立運転とし、釣りの準備を始めていた頃、B船がA船の西方約100mにA船と同じ釣り場に向かって近づいてくるのを認めた。</p> <p>船長Aは、その後、B船の到着場所を見ておらず、A船の船首を北東方に向けて漂流しながら、船尾部の操舵室出入口右舷側に設置された操縦ハンドルの前に座って右舷方を向いて釣りを始めた。</p> <p>船長Aは、A船が南西への潮流により、船首の向きが北東方から東方になり、南西に約30m流された頃、右舷正横付近に‘大ゾワイと称する最低水面からの高さが約1.5mの干出岩’（以下「本件干出岩」という。）が海中に見え始め、約4mの距離まで接近していることに気付いた。（図1参照）</p> <div style="text-align: center;"> <p>The diagram illustrates the relative positions of Ship A and Ship B during the incident. Ship A is represented by a horizontal arrow pointing right, labeled 'A船'. Ship B is represented by a vertical arrow pointing down, labeled 'B船'. A dashed circle at the bottom left is labeled '本件干出岩' (This incident's rock). An arrow labeled '潮流の向き' (Current direction) points from the top right towards the bottom left, indicating the direction of the current.</p> </div> <p>図1 A船及びB船が漂流していた状況</p> <p>船長Aは、本件干出岩に乗り揚げると思い、竿を揚げてクラッチを前進に入れて左舵を取り、スロットルレバーを増速させたところ、A船が左回頭しながら前進中、06時32分ごろ、衝撃を感じ、A船の船首部と左舷船首方約45°5～6m付近にいたB船の左舷船尾部とが衝突したことに気付き、すぐにクラッチを切って機関を中立運転とした。</p> <p>船長Aは、B船の船長B及び同乗者3人が怪我をしていないことを聞き、牛窓港にあるB船のマリーナの係船場所に向かった。</p> <p>B船は、船長Bが1人で乗り組み、知人3人（以下それぞれ「同乗者B₁」、「同乗者B₂」及び「同乗者B₃」という。）を乗せ、釣りの目的で、06時10分ごろ前島南東方沖の釣り場に向けて牛窓港を出港した。</p>

B船は、前島南方の沿岸を東進し、同島南東方沖に数隻の釣り船及びA船がいるのを認め、06時30分ごろA船の東方7～10m付近に到着し、船首を北東方に向け、船外機を停止した。

B船は、船長B、同乗者B₁、同乗者B₂及び同乗者B₃がそれぞれ配置につき、釣りの準備を開始した。(図2参照)

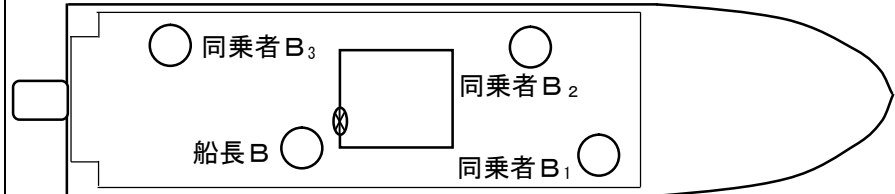


図2 船長B及びB船同乗者の配置

船長Bは、釣りの準備を行っていたところ、後方からA船の機関音が聞こえ、同乗者B₃が突然声を上げた時、B船とA船とが衝突して衝撃を感じ、すぐに操縦席にしがみついた。

B船は、衝撃で船尾が右に押された際、右舷船首部に立って釣り糸を垂らそうとしていた同乗者B₁が海に投げ出された。

船長Bは、同乗者B₁の音が聞こえ、同乗者B₁が落水していることに気付き、同乗者B₁をB船の船尾部から船内に引き揚げた。

船長Bは、B船のマリーナの係船場所に戻ることを船長Aに伝え、A船と共に帰港した後、本事故の発生を海上保安庁に通報した。

(付図1 事故発生経過概略図、写真1 A船の損傷状況、写真2 船長Aが本事故当時に操船していた姿勢、写真3 B船の損傷状況参照)

その他の事項

船長Aは、釣りを始めてから釣りに集中し、B船がA船の左舷船首方近くで漂泊していることに気付いておらず、A船が本件干出岩付近に接近していたことに気付いた際、本件干出岩を避けようとして右舷側に気を取られ、座った状態で慌ててハンドルを左に取り、前方を見ながら前進したので、B船がいる左舷船首方をよく見ていなかったと本事故後に思った。(図3参照)



図3 船長Aが座った状態で前方を見た状況

	<p>船長Bは、前方を見て釣りの準備をしていたところ、後方からA船の機関音が聞こえたものの、漂流中のB船を航行船が避けてくれると思って気に留めていなかったため、A船の動きを見ていなかったと本事故後に思った。</p>
<p>分析</p> <p>乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象等の関与 判明した事項の解析</p>	<p>A あり、B あり A なし、B なし A あり、B なし</p> <p>A船は、前島南東方沖で船首を東方に向けて漂流中、船長Aが、右舷方を向いて釣りをしながらB船がA船の左舷船首方近くで漂流していることに気付いていない状況下、右舷正横付近の本件干出岩に接近したことに気付いた際、本件干出岩を避けようとして右舷側に意識を向け、座った状態で前方を見て左転しながら前進したことから、左舷船首方で漂流中のB船と衝突したものと考えられる。</p> <p>船長Aは、釣りに集中していたことから、B船がA船の左舷船首方近くで漂流していることに気付かなかったものと考えられる。</p> <p>B船は、前島南東方沖で船首を北東方に向けて漂流中、船長Bが、漂流中のB船を航行船が避けてくれると思い、釣りの準備に意識を向けて漂流を続けたことから、後方からA船の機関音が聞こえたものの、回避する間もなく、A船と衝突したものと考えられる。</p>
<p>原因</p>	<p>本事故は、前島南東方沖において、A船及びB船が共に漂流中、船長Aが、B船がA船の左舷船首方近くで漂流していることに気付いていない状況下、本件干出岩を避けようとして右舷側に意識を向け、座った状態で前方を見て左転しながら前進し、また、船長Bが、漂流中のB船を航行船が避けてくれると思い、釣りの準備に意識を向けて漂流を続けたため、両船が衝突したものと考えられる。</p>
<p>再発防止策</p>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 船長は、漂流中、常時、周囲の見張りを適切に行うとともに、釣りに集中し過ぎることなく、付近の漂流船等の動静を把握しておき、移動する際には周囲を見て漂流船がないかどうかを確認すること。また、急な旋回をして発進しないこと。 ・ 船長は、漂流中、常時、周囲の見張りを適切に行うとともに、付近の漂流船が急に動き出す場合があるので、直ちに回避できるように機関を中立運転とすること、又は、同船と十分距離をとって安全な場所で釣りの準備を行うこと。

付図1 事故発生経過概略図

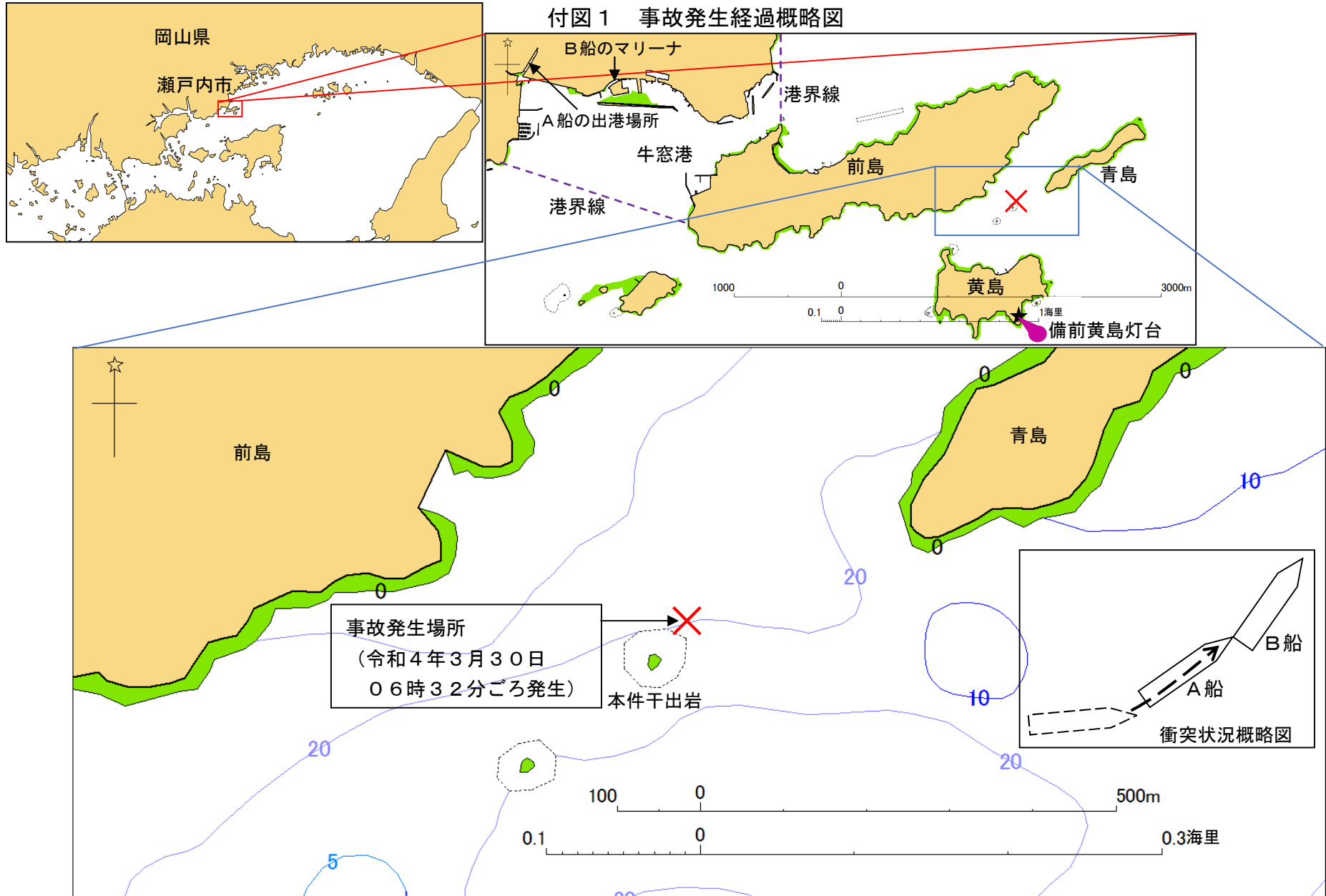


写真1 A船の損傷状況



写真2 船長Aが本事故当時に操船していた姿勢



写真3 B船の損傷状況

